

『日本書紀』の物語とともに
1300年前の人々に想いを
はせながらゆかり地を
巡りましょう。



相撲神社



「垂仁天皇の時代、「当麻邑に勇ましく強い当麻蹶速という者がいて、力比べの相手を探しています」と奏する者がいました。それを聞いた天皇は、蹶速と互角に戦える者を探し、推挙された野見宿禰を出雲国から呼び寄せました。そして二人は力比べをし、宿禰が蹶速のあばら骨を蹴り折り、腰を踏み砕いて殺してしまいました。宿禰は褒美に蹶速の領地をもらい、そのまま留まって朝廷に仕えることになりました。この宿禰と蹶速の力比べが相撲の起源だとされています。

同じく垂仁天皇の時代、陵墓の境界に臣下を生き埋めにする殉葬という葬礼が行われた際、昼夜泣き呻く臣下の声を聞き、天皇は心を痛めていました。皇后の日葉酢媛命が亡くなったとき、殉葬を止めるため、新たな方法を臣下にたずねました。すると野見宿禰が出雲国の土部百人を呼び寄せ、埴輪で人や馬などを作って陵墓に立てるように進言しました。これを名付けて埴輪といわれています。天皇は喜び、皇后の陵墓に埴輪を立てて弔いました。『日本書紀』ではこれを埴輪の起源としています。

巻第六
「垂仁天皇」

相撲・埴輪のはじまり

当麻蹶速塚

当麻寺の参道にある蹶速の墓と伝わる場所です。塚の隣には相撲館の「けはや座」があり、その展示土俵に上がることができます。



相撲神社

野見宿禰と当麻蹶速が戦い日本初の天覧試合が行われたとされている場所で桜井市穴師にあります。大兵主神社の摂社で、宿禰が祀られています。

特別展「出雲と大和」開催! 2020年1月15日(水)~3月8日(日)

東京国立博物館で日本書紀成立1300年特別展「出雲と大和」を開催します。

詳しくは下記へ。

🌐 izumo-yamato2020.jp/

